

## 韓国：

### ホームスクーリングの現状とグローバル化の影響

石川 裕之（京都女子大学）

#### 1. ホームスクーリングの概況

韓国でホームスクーリングを実施する家庭が出てきたのは 1990 年代後半と考えられている<sup>1</sup>。この時期は、本格的なオルタナティブ・スクールが登場した時期と重なる。1990 年代に入って教育の民主化が進んだ結果、既存の画一的で入試中心の公教育へのアンチテーゼとしてオルタナティブ教育が登場し、草の根的なオルタナティブ教育運動の中からやがて常設型のオルタナティブ・スクールが発展していった。学校の形態をとらないホームスクーリングもまた、公教育へのアンチテーゼとしてのオルタナティブ教育の展開の一部であったとみることができるだろう。当初は宗教的理由でホームスクーリングを選択する家庭が多かったが、その後、保護者の教育的な信念によって選択する場合が増えていったといわれる<sup>2</sup>。

韓国では初等学校（わが国の小学校に相当）の 6 年間と中学校の 3 年間が義務教育期間となっている。韓国では 2014 年に「学校の外の青少年の支援に関する法律」（2015 年施行）が制定されて以降、それまで無認可だったオルタナティブ・スクールについても 2022 年以降は教育監に登録すれば「登録代案教育機関」として法的地位が付与されることになるなど、正規の学校以外で学ぶ児童生徒への支援が強化されている。ただし、就学義務制<sup>3</sup>をとる韓国では、依然としてホームスクーリングは厳密には違法である。このためホームスクーリングに関する公的な統計は存在せず、ホームスクーリングを選択する家庭がどれくらいあるか正確には分からない<sup>4</sup>。しかしながらホームスクーリングを選択する家庭は増加傾向にあると考えられ、1999 年時点で 200 家族あまり、2016 年時点で 600 家族あまりと推定されている<sup>5</sup>。

なお、2022 年 9 月基準の長期欠席児童生徒 1 万 4,267 名のうち、「ホームスクーリング」を理由に欠席している児童生徒は 1,725 名（うち初等学校生 941 名）であった<sup>6</sup>。もちろんこれは公的な調査によって補足できたホームスクーラーの数であり、実際にはより多くのホームスクーラーが存在している可能性があるものの、韓国の初等学校生は 266 万 4,278 名、中学生は 134 万 8,428 名（2022 年時点）<sup>7</sup>であることを考えれば、ホームスクーラーの

占める数は初等学校で1万名に約4名(0.04%)、中学校で1万名に6名(0.06%)に過ぎず、ホームスクーラーは韓国社会においては依然として「ごく希にいる存在」であるといえよう。

## 2. ホームスクーリングの方法と目的

法令上正式に就学義務の免除や猶予を受けるには、疾病や発育上の問題などやむを得ない事由があることを就学予定または就学中の学校の長に申請し、学校内に設置される義務教育管理委員会の審議を経て、学校長によって認定される必要がある。認定を受けた児童生徒の学籍は、学籍管理上「猶予による定員外学籍管理」として処理される。ただし、就学義務の猶予期間は1年以内とされているため、延長する場合は毎年手続きが必要となる(初・中等教育法第14条、初・中等教育法施行令第28条第1・6・7項)。このため疾病等の事由のないホームスクーラーは、就学義務の免除や猶予ではなく「長期欠席による定員外学籍管理」という方法を選択するケースが多いとされる。正当な事由がなく年間授業日数の3分の1以上を欠席した児童生徒については、就学中の学校内に設置される義務教育管理委員会の審議を経て、学校長の決定により定員外管理となる<sup>8)</sup>。

なおソウル市の場合、期日になっても就学しない児童生徒に対する就学督促・督促の手続きとして、下記のような指針が定められている<sup>9)</sup>。正当な事由なしに長期欠席をする児童生徒への出席督促・督促の手続きもこれに準じた内容となっており、加えて年間授業日数の3分の1以上欠席して定員外学籍管理の対象となった児童生徒について教育長に報告することとなっている<sup>10)</sup>。

### 1) 期日経過1日目～3日目

初等学校の場合、学校長が邑面洞(わが国の市町村に相当)の長と協力して、就学しない児童の保護者に電話連絡し、就学を督促する。中学校の場合、就学しない生徒および保護者に学校長が電話連絡し、就学を督促する。学校長は就学現況を把握し、就学しない児童生徒の現況および対応の結果等を教育長(わが国の市町村教育委員会教育長に相当)に報告し、教育長は教育監(わが国の都道府県教育委員会教育長に相当)に報告する。

### 2) 期日経過4日目～10日目

児童生徒が就学しない場合、学校長は家庭訪問を実施する。家庭訪問は、学校教職員と邑面洞の社会福祉担当職員で構成された2名チームで実施し、必要に応じて警察に協力を要請する。家庭訪問を実施したにも関わらず入学しない場合、保護者に児童生徒とともに必ず来校するよう要請する。このプロセスにおいて児童生徒の所在・安全が確認できない場合、即時警察に協力を要請する。学校長は、未就学児童生徒の現況および対応の結果等を教育長に報告し、教育長は教育監に報告する。なお、行政情報共同利用を通じて児童生徒の出国が確認された場合は、家庭訪問を省略できる。

### 3) 期日経過 11 日目以降

教育長の下に設置される担当組織が就学しない児童生徒についての「個人別管理カード」を作成し、その中から居住地不明であったり児童虐待が憂慮されるケースなど集中的な管理が必要な者を選び管理する。担当組織は月に 1 回以上児童生徒の所在・安全を確認し、就学を督促する。児童生徒の所在・安全が確認できない場合は即時警察に協力を要請する。また、学校長の下に設置される担当組織が「学校の外の青少年支援センター」等と協力しつつ、補習や学校適応支援などをおこない、その結果を教育監に報告する。

以上から読みとれるように、学校に通わない児童生徒に対する学校や行政からの就学督促・督促は、もちろん学習権の保障という目的もあるものの、一般行政の社会福祉担当部署や警察との連携・協力が定められるなど、どちらかといえば虐待防止など子どもの生命・身体を確保するための児童福祉の面が強いことが分かる。就学期日経過または欠席が 11 日目以降となった児童生徒については教育長によって「個人別管理カード」が作成される。そこには児童生徒の指名、住民登録番号、保護者の氏名、住所・連絡先、配定された学校名、管轄する洞住民センターと担当者名、学校に通わない理由や実施した就学督促・支援の詳細などが記録されるようになっている<sup>11)</sup>。特に児童虐待の可能性などが疑われる場合には、「集中管理対象者管理カード」が作成され、父親と母親それぞれの氏名・連絡先、担任の氏名・連絡先、警察への通報日時の欄があるなど、個人別管理カードよりもさらに詳細な情報を記録できるようになっている<sup>12)</sup>。後述するホームスクーラーによるインターネット配信動画においては、家庭がホームスクーリングを希望した際の学校側の対応として教員による定期的な連絡や家庭訪問などがおこなわれることもあるが、地域や学校、担任ごとにかなり異なるという情報が提供されていた。しかしながら、韓国社会を震撼させた保護者による就学猶予児童に対する虐待死・遺体遺棄事件（2016 年）やホームスクーリングを理由に学校に通っていなかった児童が保護者から虐待死させられる事件（2022 年）など、近年児童虐待やネグレクトなどが社会問題化し、ややもすると就学猶予やホームスクーリングが児童虐待の「かくれみの」とみなされる傾向が出てきたことで、学校に通わない児童生徒に対する学校や行政の対応に関する指針（内容の多くの部分が全国的に共通している）も整備されてきている。

なお、上述したように就学義務制をとる韓国ではホームスクーリングは厳密には違法である。しかし近年、自治体によっては個人別管理カードの「未就学事由」欄に、「疾病」「障害」「代案学校」「認定代案教育機関」「未認可教育施設」「出国」「認定留学」「未認定海外出国」などと並んで「ホームスクーリング」や「家庭内学習」が例示されるようになっている<sup>13)</sup>。これは、児童虐待などから子どもを守るために、一人一人の子どもの学校に通わない理由や現況を学校や行政ができるだけ詳細に把握・共有しておこうという姿勢の現れと考えることができる<sup>14)</sup>。しかしこのことは同時に、ホームスクーリングによって就学しない児童

生徒が一定数存在していることを行政側も想定していることを示しており、かつそれを（児童虐待等の可能性がない場合に限り）一定程度許容あるいは黙認している様子がうかがえる。

次に、ホームスクーラーによるインターネット配信動画を分析した結果、ホームスクーリングを選択する目的については、以下の 6 つに分類できた<sup>15</sup>。ホームスクーリングを選択する目的は多様であることが分かるし、複数の目的を持っている家庭もあると考えられる。

- 1) 子どもの個性や才能、障害、興味関心に応じた教育を受けさせるため
- 2) 自分のしたい勉強や活動の時間を作るため
- 3) いじめなどから子どもを守るため
- 4) 成績中心・入試中心の競争的な教育を避けるため
- 5) 宗教的な教育（聖書教育など）をおこなうため
- 6) 海外の教育プログラムや英語教育を受けさせるため

また、継続的なホームスクーリングの経験を持つ 18 個の家庭の構成員を対象とした調査をおこなったキム・ヒョンジュとヤン・ソンウン（2011 年）によれば、やはりホームスクーリングを選択した理由は多様であり複合的であるが、以下のように整理できるという<sup>16</sup>。

- a) 公教育に対する懷疑
  - ・かわいそうな子どもたち
  - ・無責任な保護者
  - ・満足できない学校
- b) 保護者の信念体系
  - ・教育の多様性の追求
  - ・ともに過ごす時間を志向する
  - ・信仰的理由
- c) 子どもの不適応
  - ・発達の困難がある場合
  - ・学校適応のむずかしさがある場合

これらの中には、子どもや家庭の問題というより、公教育側の抱える問題ゆえにホームスクーリングに対するニーズが生じているといえるものもある。たとえば上記のインターネット配信動画の中で示された目的のうち、1) については、子どもの能力と適性に応じた教育機会の享受は憲法で保障された国民の基本的権利の 1 つであり<sup>17</sup>、これが十分に保障されていないからこそホームスクーリングを選択せざるを得ないともいえる。また、3) と 4) については明らかに公教育側が改善の努力をすべき事項であり、少なくともホームスクー

リングを選択した子どもや保護者に責任はない。また、5) についても、韓国では受験競争抑制政策として 50 年以上にわたって中学校・高校の学校別入試を抑制しており、進学先は原則として公立・私立の別なく抽選によって決定される。その結果、子どもや保護者は進学先として宗教系の私立学校を自由に選ぶことができないし、私立学校も宗教的理念を前面に押し出した教育を実施することができなくなっている。公教育の中に宗教教育に対するニーズを充足できるような場が存在しないことも、ホームスクーリングを選択せざるを得ない理由の 1 つとなっていると考えられる。

ただし、実際に公教育側に問題があったとしても、実際にホームスクーリングを選択できる家庭はそれほど多くないこともまた事実であろう。たとえば上記 1)・3)・4) は、韓国の多くの保護者が共通して望むことであろうが、その大部分は一般の学校に子どもを通わせている。ホームスクーリングを選択するには様々なハードルがあるが、その最たるものは経済的なハードルであろう。韓国では 2021 年以降、ごく一部の特別な学校を除き、私立学校も含めて高校段階まで無償化されている<sup>18</sup>。一方、ホームスクーリングを選択するためには、学校で無償配付される教科書以外に別途の教材やオンライン・プログラムを購入したりする必要があるし、保護者が子どもの学習計画を立て、勉強をみてあげる必要もある。したがって保護者の教育意識が高く、家庭に一定の社会的・経済的資源があることが条件となると考えられるが、実際に、ホームスクーリングをしている家庭は全般的に収入が高く、中産階級が多いといわれている<sup>19</sup>。保護者の学歴も高く、2011 年の調査によれば大卒以上が 94.4% で、高卒 (5.6%) よりも博士課程修了 (8.3%) のほうが多かった。2012 年の調査によれば、アメリカのホームスクーラーの保護者の学歴は 4 年制大卒以上が 49%、高卒以下が 16% であった<sup>20</sup>。韓米両国の大学進学率の差などを勘案しても、韓国のホームスクーラーの保護者の学歴は明らかに高いといえる。

このように、ホームスクーリングを選べるということ自体相対的に恵まれているといえる。しかしながら、ホームスクーリングが違法行為であるため公的サポートが皆無で、ホームスクーラーもごくわずかしきないため相互扶助や周囲からの理解も期待できず、アクセス可能な情報もまだ少ない現在の韓国において、ホームスクーリングが決して容易な選択ではないことは確かである。大部分の保護者にとってそれは子どものためのやむにやまれぬ決断であろうし、ホームスクーリングによって保護者が経済的・時間的そして心理的に多くの負荷を負っている点にも留意しておかねばならない。

なお、配信動画をみる限り、ホームスクーリングを選択したことについて保護者は、公教育とホームスクーリングを相互に選択し得る等価なものとして相対化しており、「自分たちは公教育を否定しているのではなく、〇〇の理由により後者を選択したに過ぎない」というスタンスをとる傾向がみられた。一方で子どもは、保護者に比べて子どもはより率直に、公教育に対するホームスクーリングの (少なくとも自分にとっての) 優位性に言及しており、ホームスクーリングを始めたことで勉強が楽しくなってきたということや、ダンスなど自分のしたい活動により多くの時間を投入することができるようになったという発言がみら

れた。自らホームスクーリングを選択しつつもその公教育に対する優位性に言及することに極めて慎重な保護者の姿勢には、韓国社会において非常にセンシティブな事項である教育に関する内容を発信するにあたっての慎重さや、自分たちが公教育を選択せず違法な教育を選択していることに対するうしろめたさ、公教育を否定したと受け取られた際の「炎上」リスクへの警戒といったものが影響している可能性がある。特に、上述したようにホームスクーリングを選択できるのは韓国社会においても比較的収入の高い層であることを考えると、保護者が動画において公教育の批判になるような発言を一貫して慎む姿勢をとる理由は、国や行政への配慮であるとともに、経済的・時間的な理由により「公教育しか選択できない人々」、すなわち大多数の視聴者への配慮であると捉えることもできよう。

さらに、保護者や子どもがホームスクーリングの成果に言及している部分に注目した場合、次のようなことが成果として当事者に認識されているものと推察された。

- ・自分のやりたい活動のために時間を自由に使える
- ・家族との時間をたくさんとれるようになった
- ・宿題や試験の負担がなくなった
- ・子どもの自律性が育つ
- ・海外の有名大学に進学できる可能性がある

上述したように、今回分析対象とした動画では、ホームスクーリングを選択した理由として保護者の教育選択権や子どもの学習権の保障を前面に出したものが多かった。しかしこれも上述したように、学校に通わない児童生徒に対する学校や行政の対応指針に表れた第一の関心は子どもの生命・身体安全確保であった。ここからは、ホームスクーリングをめぐる保護者側と学校・行政側の関心には「すれ違い」が生じていることがうかがえる。これは、韓国において子どもをめぐる家庭・社会の状況が急速に深刻化したため、学校・行政の施策の優先順位が就学義務履行から子どもの生命・身体安全確保へと移った結果、ホームスクーリングをめぐる論点がこれまでの「保護者の教育選択権および子どもの学習権保障×就学義務の履行」という対立しがちなものから、「保護者の教育選択権および子どもの学習権保障×子どもの生命・身体安全確保」という必ずしも対立しないものへと変化しつつある可能性を示唆している。就学督励・督促の指針にもホームスクーリングを黙認するかのような記述がみられるようになったことも、それを裏づけている。

子どもの生命・身体安全確保は極めて重要であり、学校を通じていち早く児童虐待の兆候を把握し、学校と行政、警察が連携・協力して断固これを防ぐという姿勢は評価できるものである<sup>21</sup>。ただし、子どもが学校に通わないことと子どもの生命・身体安全確保が結びつけられてしまった結果、ホームスクーラーの保護者には新たなプレッシャーがかかってくる可能性もある。あるホームスクーラーの保護者は子どもの学校の教員から、子どもの無断欠席を続けた場合、警察に通報されるかもしれないし警察が家まで来るかもしれないと

いわれたという<sup>22</sup>。ホームスクーリングをめぐる論点が「保護者の教育選択権および子どもの学習権保障×就学義務の履行」であれば、保護者が相手にするのは学校や教育行政の人間であり、仮に処分を受けたとしても行政処分にとどまる。しかし、論点が「保護者の教育選択権および子どもの学習権保障×子どもの生命・身体・安全確保」に移った場合、保護者は最終的に警察を相手にしないといけない可能性もあり、最悪の場合は刑事処分を受ける可能性もあり得る。実際にはその可能性はかなり低いとしても、保護者の受ける心理的なプレッシャーはこれまでと違った質の、より強いものとなるだろう。

以下では、ホームスクーリングに対するグローバル化の影響をみるために、前述した韓国の家庭がホームスクーリングを選択する理由のうち、「宗教的な教育（聖書教育など）をおこなうため」と「海外の教育プログラムや英語教育を受けさせるため」に注目して検討していく。その際、ホームスクーリングをめぐる生じる子どもの「学びの場」の変化に注目する。

### 3. 宗教教育を目的としたホームスクーリングとグローバル化

韓国のホームスクーリング関連の動画でよく言及されるキリスト教系のプログラムとしては、BJU Press Homeschool<sup>23</sup>、ABEKA<sup>24</sup>、Sonlight<sup>25</sup>などアメリカ発のものが多い。アメリカ発のキリスト教系ホームスクーリング・プログラムは歴史が古く、学科教材だけでなく宗教教材も充実している。これらの教材で学んだ場合、学科や宗教の知識だけでなく、同時に英語も学べるというメリットがある。英語教育熱の高い韓国では、この点もメリットと捉えられていると考えられる。現在、これらの教材は一部デジタル化され、オンデマンド講義も出てきている。しかしあくまでテキスト中心であるため、後述するオンラインスクールと比べるとリアルタイム性や双方向性は高くないと考えられる。キリスト教系ホームスクーリング・プログラムは宗教教育を目的とする韓国のホームスクーラーにとって依然主要な選択肢の1つであると考えられるが、歴史が長くこれまでの実績があるがゆえに近年の急激なICT化やグローバル化といった環境の変化に対しては最大限活用しきれていない印象もある。

### 4. 海外留学等を目的としたホームスクーリングとグローバル化

海外大学留学コンサルタントのイ・ガンリョルによれば、韓国の公教育の質に対する不信感から国際学校や早期留学を子どもの教育の選択肢として考えている保護者の間で、コロナ禍以降アメリカのオンラインスクールに対する関心が高まっているという<sup>26</sup>。その背後に、新型コロナウイルス感染症の世界的流行以降、それまで海外留学や海外語学研修の斡旋・コンサルタントをしてきた業者が、海外留学者の減少によるダメージを補い、新たな市場を開拓するためにアメリカ等のオンラインスクールの斡旋・コンサルタントに乗り出したことがあるという。中にはワシントンアカデミー国際学校や Korea Mount Olive On-line International School のように、単に既存のオンラインスクールを斡旋するにとどまらず、

海外留学斡旋業者が海外のオンラインスクールと協定を結び、「韓国分校」を開設するケースもみられる<sup>27</sup>。ただし、こうしたオンラインスクールについては、必ずしもホームスクールでの利用を前提としているわけではなく、韓国とアメリカの両方の高校卒業資格を取得できることで、韓国とアメリカのどちらの大学へ進学するチャンスも広がることをアピールしている場合もある。

オンラインスクールのメリットとして業者ウェブサイトで挙げられていることとしては、次のようなものが挙げられる。

- ・現地で正規課程として認証を受けた質の高い教育プログラムを韓国の自宅で受けられる
- ・ウェブ会議システムや動画によってリアルタイム・双方向的に受講でき、カリキュラムが体系的で、教材（基本的にすべてデジタル）も充実している。現地のメンターの支援（コンサルタント業者を通して登録した場合は業者の支援も）受けられるので保護者が直接子どもを教えなくて済む
- ・インターナショナルスクールより低コスト（韓国国内のインターナショナルスクールの10分の1程度）
- ・高校課程を修了すればアメリカ等の大学への進学資格が得られる（アメリカの大学への入学保証を謳う業者も）

これらのメリットは、どちらかといえばこれまで韓国国内におけるインターナショナルスクールに対するニーズに合致している。したがって、上述したホームスクーリングを選択する目的のうち、「6) 海外の教育プログラムや英語教育を受けさせるため」というニーズには合致するものの、その他については必ずしも合致するとは限らない。ただし、「1) 子どもの個性や才能、障害、興味関心に応じた教育を受けさせるため」や「2) 自分のしたい勉強や活動の時間を作るため」というニーズには部分的に合致する可能性があり、将来子どもをアメリカの大学へ進学させることを選択肢にできるような家庭の場合、オンラインスクールは一定の魅力を持ち得ると考えられる。

## 5. ホームスクーリングのグローバル化と「学びの場」の多様化

現在、実際にアメリカ等の教育プログラムで学んでいるホームスクーラーの数は不明である。しかし、韓国の学校教育の公的・集団的な教育・学習形態では満たすことができない宗教教育や海外留学等の教育ニーズが、ホームスクーリングという私的・個別的な教育・学習形態と結びつき、さらにそれが、①世界的な高度 ICT インフラの普及、②コロナ禍による教育プログラムの急速なオンライン・デジタル化とそれに対する人々の受容、③商業主義による教育プログラム提供側（オンラインスクール等）と受入側（海外留学斡旋業者等）の利害の一致といった状況と結びつくことで、ホームスクーリングやホームスクーラーに対



するグローバル化の影響を強化していく可能性はあるだろう。

ホームスクーリングやホームスクーラーに対するグローバル化の影響の強まりは、今後子どもの「学びの場」をより複雑なものにしていくかもしれない。家庭や子どもが個別的・個人的に、時間や空間（国境）を越えて、直接グローバルでデジタルな「学びの場」とつながるため、ローカルな「学びの場」とグローバルな「学びの場」、フィジカル（リアル）な「学びの場」とデジタル（バーチャル）な「学びの場」が子どもの日常に混在することになる。「学びの内容」に加え「学びの場」の多様化が生じることで、ホームスクーラーの子どもの進路はさらに多様化し、新たな課題が生じる可能性もあるだろう。

## 6. 「学びの場」の多様化と社会統合の問題

「学びの場」の多様化が生じた際、さらにもう1つ考えなければならない課題がある。社会統合の問題である。この問題はホームスクーリング固有の問題ではなく、無認可オルタナティブ・スクールの増加による社会の分断の可能性などオルタナティブ教育においても問題となってきたものである。ことの大小や強弱はあれど、公教育が学びの内容や学びの場の多様化に向き合った際に生じ得る普遍的な問題といえよう。

いま、韓国における従来の「一般的な」ホームスクーラー、すなわち定員外学籍管理の制度を利用して、市販またはホームスクーリング用の教材を用いて独学しながらホームスクーリングをおこないつつ、大学進学を目指すケースの進路について考えてみよう。韓国は2024年時点の大学進学率（厳密には就学率）が74.9%<sup>28</sup>という高学歴社会であり、オルタナティブ教育を受ける子どもの家庭であっても大学進学を目指す家庭の割合が多く<sup>29</sup>、ホームスクーリングを選択した家庭の場合もおそらく少なくない家庭が将来的な大学進学を念頭においていると考えられる<sup>30</sup>。

図1の通り、そうした進路をとるホームスクーラーは学校教育に代表されるローカルで公的な学びの内容や場との接点をほとんど失うことになる。しかしながら、大学進学を目指すには、「中卒検定考試」や「高卒検定考試」（わが国の中学校卒業程度認定試験高等学校卒業程度認定試験に相当）を受けて中卒・高卒の資格を取得する必要がある。大学入試の受験資格として高卒者と同等の学力を認定されるためには高卒検定考試に合格しておく必要があるし、高卒検定考試を受験するには中卒者と同等の学力が認定されていなければならないためである<sup>31</sup>。もちろん、最終的に志望する大学に入学するためには、国公立の別なく基本的に大学修学能力試験（わが国の大学入学共通テストに相当）を受験し、大学別の試験をパスする必要がある。

なお、大学別の試験を除けばこれらの試験はすべて各市・道教育庁（わが国の都道府県教育委員会に相当）や政府系シンクタンクである韓国教育課程評価院によって実施・運営されており、これらの試験の出題内容や範囲はカリキュラムの国家基準に基づいている<sup>32</sup>。中・高の検定考試でも国語・数学・英語、社会・科学（わが国の理科に相当）といった主要科目が必修となっており、高卒検定考試では韓国史も必修となっている（表1）。大学修学能力

試験では 2017 年度大学入学者から「韓国史」が必修領域として設定されており<sup>33</sup>、その目的は、「高等学校卒業者が身につけていなければならないわれらの歴史についての基本素養を評価」<sup>34</sup>することにある。すなわち、これらの試験はホームスクーラーにとって乗り越えるべきハードルであるとともに、公教育側からみた場合は学校教育を受けていない子どもたちに対する社会統合のための一種の「チェックポイント」として機能しているとみることができ、こうした仕組みによってホームスクーラーが大学進学後にメインストリームに復帰する際のショックを幾分緩和していると考えられる。

表 1. 各学校段階の卒業と同等の学力を認定する試験科目

区分		試験科目	備考
初卒	必修	国語、数学、社会、科学の 4 科目	6 科目
	選択	道徳、体育、音楽、美術、実科、英語のうちから 2 科目	
中卒	必修	国語、数学、英語、社会、科学の 5 科目	6 科目
	選択	道徳、技術・家庭、体育、音楽、美術、情報のうちから 1 科目	
高卒	必修	国語、数学、英語、社会、科学、韓国史の 6 科目	7 科目
	選択	道徳、技術・家庭、体育、音楽、美術のうち 1 科目	

出 所：韓国教育課程評価院「初卒・中卒・高卒検定考試」  
<https://www.kice.re.kr/sub/info.do?m=010605&s=kice#>、2025 年 2 月 6 日アクセスより筆者作成。

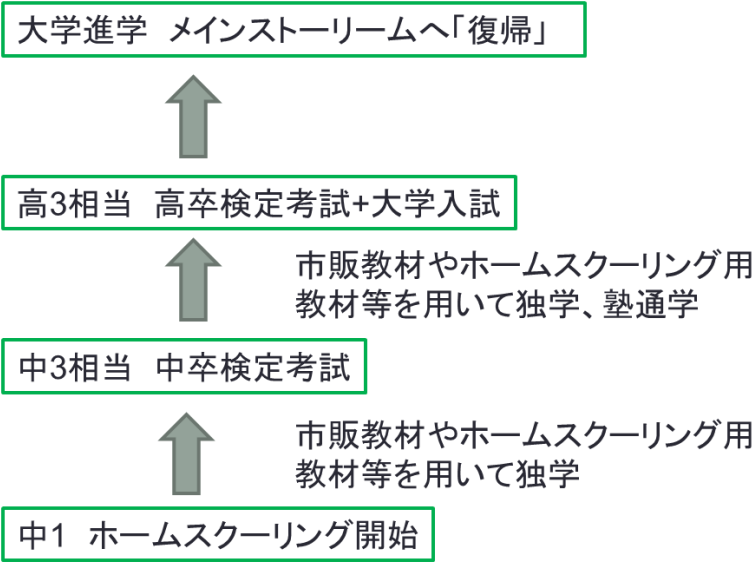


図 1. 従来の「一般的なホームスクーラー」の進路  
 (中学校第 1 学年からホームスクーリングを始めた場合)

出所：筆者作成。

一方で、海外オンラインスクールのみで独学をし、海外大学へ進学するような「グローバ

ル化したホームスクーラー」の場合、検定考試や大学入試を通じた公教育側からの「チェックポイント」を通過せずに大学まで進学する可能性がある。つまり、韓国国内にしながら、公教育制度を通じて韓国国民として社会に統合される機会を持たないまま大人になることが可能になるということである。それでも海外の大学に進学できたなら、社会統合の面で大きな問題は生じないと考えられる。しかし、もしもオンラインスクールで取得した海外の高卒資格を用いて韓国の大学に進学することになった場合、従来の「一般的なホームスクーラー」に比べて通過する「チェックポイント」は格段に少なくなるため、その分彼／彼女たちの社会統合の度合いも低くなるだろう。また、帰国子女よりも「学びの内容」と「学びの場」の結合に対する意識が不明確になる可能性もある。このように従来の「一般的なホームスクーラー」とも帰国子女とも異なる複雑な「学びの場」の経験とその記憶は、「グローバル化したホームスクーラー」のナショナルアイデンティティ形成にも影響を与える可能性がある。韓国の場合、特に男子には徴兵が課されているため、ナショナルアイデンティティは軍隊生活に適用できるかどうかを左右する重要な要素であり、社会にとっても本人にとっても大きな問題である。

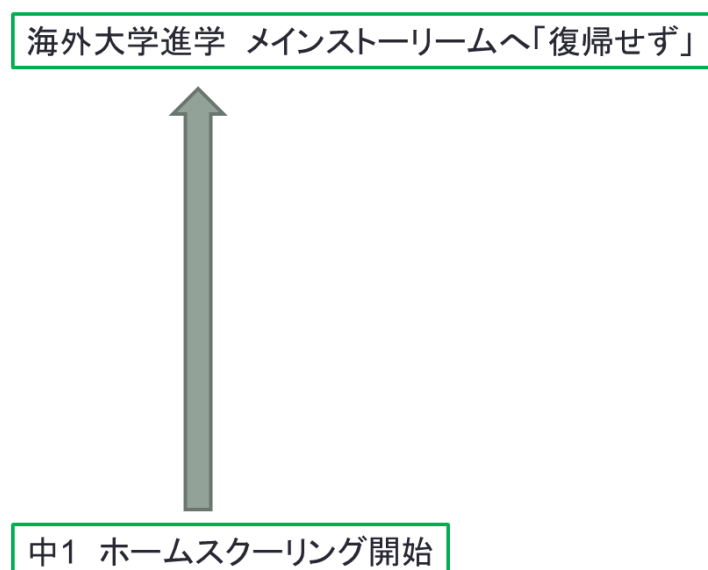


図 2. 「グローバル化したホームスクーラー」の進路  
(中学校第 1 学年からホームスクーリングを始めた場合)

出所：筆者作成。

冒頭で述べたように、現在韓国においてはホームスクーラーの数はごくわずかであり、その中の「グローバル化したホームスクーラー」となればさらにわずかであると推測される。しかし今後、海外オンラインスクールによるホームスクーリングが増加していった場合、韓国は新たな課題に直面すると考えられる。それは、韓国国内に居住しながら公教育側からの

「チェックポイント」を通過しないまま育っていく子どもに対し、教育権の保障や社会統合の点についてどのように対応していくのかという課題である。その際、「学びの場」の多様化にともなう「学びの内容」と「学びの場」の分離が、子どものナショナルアイデンティティ形成に与える影響についても考慮していく必要があろう。

## 注

- 1 キム・ヒョンスク、チョン・フィヨン「国内ホームスクーリング関連研究動向分析」『信仰と学問』第 25 巻第 1 号、キリスト教学問研究会、2020 年、p.7（韓国語）。
- 2 イ・ヒョンジ『ホームスクーリングー父母・子女の疎通ー』教育科学社、2015、p.25（韓国語）。
- 3 就学義務については、次の通り、初・中等教育法第 13 条（就学義務）に示されている。
  - ①すべての国民は、保護する子女または児童が 6 歳になった日が属する年の次の年の 3 月 1 日にその子女または児童を初等学校に入学させなければならない、初等学校を卒業する時まで通うようにしなければならない。
  - （中略）
  - ③すべての国民は、保護する子女または児童が初等学校を卒業した学年の次の学年の初めにその子女または児童を中学校に入学させなければならない、中学校を卒業する時まで通うようにしなければならない。
  - （以下略）
- 4 キム・ヒョンスク、チョン・フィヨン、前掲論文、2020、p.7、イ・ヒョンジ、前掲書、2015 年、p.25。
- 5 ユク・クォンイン、ペク・イルウ「教育民営化の観点からのアメリカと韓国のホームスクーリング比較研究」『比較教育研究』第 26 巻第 6 号、韓国比較教育学会、2016 年、p. 61（韓国語）。
- 6 ハンギョレ「‘管理死角地帯’ホームスクーリング初等生 941 名…政府対策は‘0’」、<https://www.hani.co.kr/arti/society/schooling/1079725.html>、2023 年 2 月 15 日付（韓国語）。
- 7 教育部、韓国教育開発院『2022 整理された教育統計』韓国教育開発院、2022、p.10（韓国語）。
- 8 学校生活記録簿総合支援ポータル「教員 Q & A、長期欠席による定員外管理」、<https://star.moe.go.kr/web/contents/m30102.do?schM=view&id=58011>、2025 年 2 月 17 日アクセス（韓国語）。
- 9 ソウル特別市教育庁「義務教育段階児童・学生就学履行および督励のための施行指針」ソウル特別市教育庁、2024 年、pp.14-15（韓国語）。
- 10 同上資料、pp.17-18。
- 11 同上資料、p.38。
- 12 同上資料、pp.39-40。

- 13 たとえば、ソウル特別市教育庁「義務教育段階児童・学生就学履行および督励のための施行指針」ソウル特別市教育庁、2018 年、p.33（韓国語）、ソウル特別市教育庁、前掲資料、2024 年、p.38（韓国語）、全羅北道教育監「義務教育段階就学履行および督励のための指針」全羅北道教育庁、2022 年、p.50（韓国語）、全北特別自治道教育庁「義務教育段階児童・学生のための就学履行および督励のための指針」全北特別自治道教育庁、2025 年、p.22（韓国語）、慶尚南道教育庁「義務教育段階児童・学生の就学履行および督励のための細部施行指針」慶尚南道教育庁初等教育課、2025 年、p.45（韓国語）、光州広域市教育庁「光州広域市義務教育段階児童・学生等に対する就学履行および督励のための施行指針」光州広域市教育庁、2017 年、p.43（韓国語）など。
- 14 全羅北道（現全北特別自治道）は 2022 年に、それまで正式に就学免除・猶予を認定された子どもと認定されていない子どもで分けていた就学管理体制を、認定の如何ではなく未就学という共通点に注目することで一括し、「義務教育段階就学履行および督励のための指針」として一元管理していくことにしたが、その理由の 1 つに児童虐待の防止・早期発見があったという（韓国福祉新聞「全北道教育庁、義務教育段階就学履行および督励努力傾注」、2022 年 4 月 22 日付、[http://www.thebestnews.co.kr/bbs/board.php?bo\\_table=news&wr\\_id=16679](http://www.thebestnews.co.kr/bbs/board.php?bo_table=news&wr_id=16679)（韓国語）、裡里東南初等学校長「教育通信－未認定欠席学生管理対応指針案内－」2022 年 3 月 2 日付（韓国語）。
- 15 2022 年 6 月 4 日に You Tube (<https://www.youtube.com/>) にて言語を「韓国語」、場所を「韓国」に設定し、「홈스쿨링（ホームスクーリング）」をキーワードに「関連度順」のフィルターをかけて検索した。検索結果上位 10 個の動画について、以下の事項に関する言及に注目して分析した。
- ・なぜホームスクーリングを選んだのか
  - ・公教育や正規の学校をどうみているか
  - ・なにを成果とみているか
  - ・その他の特徴
- その他に参考として、「홈스쿨링 하는법（ホームスクーリングをする方法）」や「홈스쿨링 성공사례（ホームスクーリング成功事例）」などをキーワードに検索し、関連する動画の内容を確認した。なお、当該動画には投稿者やその子どもの個人情報も多く含まれているため、個人情報保護を目的として本報告では動画の具体的な情報（投稿者名、動画タイトル、URL 等）については割愛する。
- 16 キム・ヒョンジュ、ヤン・ソンウン「韓国家族のホームスクーリング体験に対する現象学的考察」『韓国家政管理学会誌』第 29 巻第 4 号、韓国家政管理学会、2011 年、pp.191（韓国語）。
- 17 「すべての国民は、能力に応じて均等に教育を受ける権利を有する。」（大韓民国憲法第 31 条第 1 項）。
- 18 ただし、高校無償化についてはわが国と前提条件が異なるため、その解釈には注意が必

要である。韓国の私立学校はもともと政策誘導によって公立学校の「補完策」として設立されていったという歴史的経緯があるし、1960年代末以降学校別入試の抑制と抽選による入学者配定がなされるようになったことで、授業料も公立学校と同等に抑えられていた。韓国の私立学校はわが国の私立学校と比べ、多分に「準公立学校」的な性格を付与されている。こうした状況の下、2004年の中学校無償化においても私立学校も対象となったし、2021年の高校無償化についても公立学校と同時に私立学校が無償化されるのは当然のことであった。

- 19 ユク・クォンイン、ペク・イルウ、前掲論文、2016年、pp.65-68。
- 20 同上論文、同上頁。
- 21 たとえばわが国の例であるが、沖縄の夜の街で働く少女たちを対象にフィールドワークをおこなった上間によって、学校の教員集団がネグレクトを受けている子どもの重要なセイフティネットの役割を果たした事例も報告されている（上間陽子『裸足で逃げるー沖縄の夜の街の少女たちー』太田出版、2017年、pp.64-70）。学校や行政といった「大人の目」の存在は、本文で述べた通りホームスクーラーの保護者に心理的なプレッシャーをもたらすものの、時に子どものセイフティネットにもなり得るということは念頭においておく必要があるだろう。
- 22 上述したホームスクーラーによるインターネット配信動画のうち1本より。
- 23 BJU Press Homeschool はホームスクーラーのために聖書にもとづく世界観を形成するための教育プログラムや教科書などを販売しており、教科書に即したビデオ講義もオンラインで提供している（BJU Press Homeschool ウェブサイト、<https://www.bjupresshomeschool.com/content/about-distance-learning-online>、2025年2月14日アクセス（韓国語））。
- 24 ABEKA は聖書教育の理念にもとづくホームスクーラー向けの教育プログラムや教科書、DVD教材などを販売しており、オンラインでのビデオ講義、保護者向けの教育支援サービス等も提供している（ABEKA ウェブサイト、<https://www.abeka.com/Homeschool/>、2025年2月14日アクセス（韓国語））。
- 25 Sonlight はキリスト教にもとづくホームスクーラー向けの教育プログラムと教科書、インストラクター用の指導書などを販売している（Sonlight ウェブサイト、<https://www.sonlight.com/>、2025年2月14日アクセス（韓国語））。
- 26 エイムハイ教育「Stanford Online high School」、[http://www.ah.or.kr/sub04/sub03\\_2.php](http://www.ah.or.kr/sub04/sub03_2.php)、2023年8月23日アクセス（韓国語）、「홈스쿨링」、[http://www.ah.or.kr/sub04/sub03\\_3.php](http://www.ah.or.kr/sub04/sub03_3.php)、2023年8月23日アクセス（韓国語）および BM オンラインセンター「提供サービス」、[http://www.onlineuhak.com/xe/online\\_uhak](http://www.onlineuhak.com/xe/online_uhak)、2023年8月23日アクセス（韓国語）。
- 27 ワシントンアカデミー国際学校、<https://www.wakorea.org/>、2023年8月23日アクセス（韓国語）および Korea Mount Olive On-line International School、<https://kmo>

- is.kr/、2023 年 8 月 23 日アクセス（韓国語）。
- 28 e-ナラ指標「就学率および進学率」、[https://www.index.go.kr/unity/potal/main/EachDtIPageDetail.do?idx\\_cd=1520](https://www.index.go.kr/unity/potal/main/EachDtIPageDetail.do?idx_cd=1520)、2025 年 3 月 2 日アクセス（韓国語）。
- 29 ハンギョレ「代案学校卒業生も大学にかなり行くね」<https://www.hani.co.kr/arti/society/schooling/543782.html>、2012 年 7 月 23 日付（韓国語）。
- 30 ただし、キム・ヒョンジュとヤン・ソンウンの研究によれば、調査対象となったホームスクーリングの経験を持つ 18 個の家庭のうち、その多くが、子どもの大学進学を念頭におきつつも、それを「子どもの夢をかなえるための 1 つの道具に過ぎない」、「結局、大学進学は子どもの選択によって決定されるだろう」と考えていたという。これをふまえてキム・ヒョンジュとヤン・ソンウンは、ホームスクーリングの経験を持つ家庭にとって、子どもの大学進学は重要な価値ではないと述べている（キム・ヒョンジュ、ヤン・ソンウン、前掲論文、2011 年、p.199）。このように、仮に大学進学率が高いとしても、それがすなわち家庭が子どもの大学進学に価値をおいていることを意味しているわけではないということは留意すべき点であろう。
- 31 ソウル特別市教育庁「高卒案内」[https://www.sen.go.kr/www/news/exam/gosiexam/gosiexam\\_3.jsp](https://www.sen.go.kr/www/news/exam/gosiexam/gosiexam_3.jsp)、2025 年 2 月 6 日アクセス（韓国語）。
- 32 韓国教育課程評価院「初卒・中卒・高卒検定考試」<https://www.kice.re.kr/sub/info.do?m=010605&s=kice#>、2025 年 2 月 6 日アクセス（韓国語）。
- 33 韓国教育課程評価院「大学修学能力試験」<https://www.suneung.re.kr/sub/info.do?m=0101&s=suneung>、2025 年 2 月 6 日アクセス（韓国語）。
- 34 教育部『2025 学年度大学修学能力試験施行基本計画公告』（報道資料）、2024 年 7 月 1 日付、p.1（韓国語）。